

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「クラブと地区の
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「しなやかな変化で
奉仕を高めましょう」



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 **イアンH.S.ライズリー**
2560地区ガバナー **新保 清久**
高田ロータリー会長 **橋詰 敏一**
幹事 **田中 正人**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守
小池 猛紀

第11回例会 ■ 9月22日(金)

No. 11

会長挨拶 ● 橋詰 敏一



先週土曜日の第7分区第24回IM（都市連合会）へ出席いただいた皆様、大変ありがとうございました。22名の方より出席いただき、新幹線や自家用車で都合を付けていただいた方もいらっしゃいました。感謝いたします。記念講演では、県立海洋高等学校 久保田校長先生より講演いただきました。（演題：若者の力で地域が輝く、産学官連携の取組 ～頑張ろう！糸魚川～ 夢を実現）実業高校（県内唯一の水産系高校）として、人材育成は基より起業をし、生産から販売までを実現し、更に専修学校に向けての働き掛けと、その発想と行動力はとても高校の校長とは思えない、企業家精神にあふれるもので驚きました。見習うべき点が多いものでした。また、アトラクションでは浅草芸妓 浅草聖子さんの手踊りを披露いただき、その艶やかさにうっとり致しました。すばらしいIMであったと思います。第25回IMは、高田東クラブが担当され、次年度宮下ガバナー補佐予定者より挨拶がありました。

さて、明日23日は二十四節気八節の秋分の日（彼岸の中日）です。これから秋が深まってまいります。お酒が益々美味しくなる季節です。クールビズも終わりとなります。夏の疲れがでてまいります。皆さんお体、ご自愛ください。

出席報告

出席率 98.33%

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

澤井祥典君——本日も例会欠席で申し訳ございませんが、北城町3丁目の土地（旧澤井組本社跡地）を有効活用するため、ドラッグトップスと土地建物賃貸借契約を結びました。オープンは9月27日(水)です。商品の売り上げは、当社には影響ありませんが、よろしかったらご利用くださいませ。

会員インフォメーション

古淵英一君——10月27日 北越銀行創業140周年記念講演会のご案内

羽深耕時君——IM記念ゴルフ大会結果報告（団体優勝）

幹事報告

配布物：週報No.10

回覧：ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団コンサートパンフ

10月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
13	10月6日	会員卓話 夏井 陽三君 「最近のニュース」	デュオ・セレッソ
14	10月13日	お月見例会	長養館
15	10月20日	米山月間会員卓話 米山奨学委員長 佐藤 信明君	デュオ・セレッソ
16	10月27日	地区財団委員会 「グローバル補助金について」	デュオ・セレッソ

卓 話

災害支援におけるボランティアの可能性



地域福祉課地域福祉係 係長 佐藤 貴規 様

社会福祉法人上越市社会福祉協議会

地域福祉課地域福祉係 係長 佐藤 貴規 様

近年、日本全国で大きな災害が発生しています。新潟県内においても糸魚川市の大火災害などが発生し、住民生活に大きな被害をもたらしました。過去に大きな災害と向き合い、乗り越えてきた経験から、災害時の復旧・復興の過程では、ボランティアによる支援活動が大きな力になると言われています。いざ災害が発生すると、全国各地から被災地・被災者を支援したいという思いを持った多くのボランティアが被災地に駆けつけます。しかし、被災地でボランティアを受け入れる又は調整する機能が整っていないと、大きな力になるはずの支援活動が効果的には行われません。上越市社会福祉協議会は、関係団体の方々と協力・連携し、ボランティアの「力になりたい」という想いと被災者の「支援してほしい」という想いを結ぶ災害ボランティアセンターを設置し、ボランティアの力が最大限発揮できるよう活動します。また、支援活動は個人の活動だけに限らず、企業や団体の方々

と協力・連携しての活動も行われます。

平成28年の糸魚川市駅前北大火災害では、地元企業の社員による方々の組織的なボランティア活動の実施、企業が持つ技術や物資の提供、ボランティアの休憩所としてのスペースの提供などが行われました。熊本地震でも、社屋の駐車場を災害ボランティアセンターの設置スペースとして提供いただいた例もあります。このように、個人や団体、立場等を超えて、支援したいという想いを結集していくことが被災者支援には重要だと考えます。

終わりに、災害支援を行う関係者の間では「泥を見ずに人を見よ」という言葉が語られます。私たちは、被災地へ支援活動に入った時、目の前の泥や瓦礫だけを見ようとしてしまいがちですが、本当に大切なのは泥や瓦礫の向こう側にいる「人」を見つめ、「人」に寄り添った活動をしていくことだと考えます。

第7分区IMが開催される

9月16日(土)第7分区のIMが、藤巻賢策ガバナー補佐主催により糸魚川RCがホストを務め、「ホテル國富アネックス」を会場に盛大に開催されました。当クラブからは22名が参加しました。

